

県特産のモモやナスの病害を防ぐ新技術を開発する

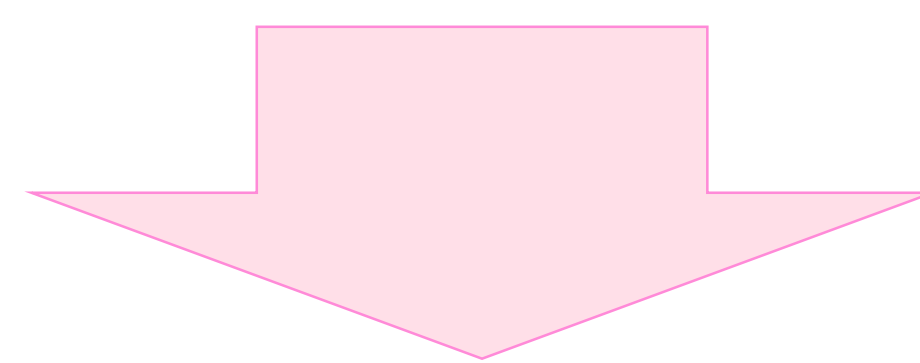
研究目的：県主要農作物のモモやナスに大きな被害を与える細菌病害を防除する新技術を開発し、安定生産に貢献する。

研究① モモの重要病害「せん孔細菌病」を防除する技術の開発

せん孔細菌病はモモの葉や枝に病斑を形成して樹勢を弱らせ、果実の品質を大きく低下させることから、モモ生産の大きな阻害要因です。県病害虫防除所の2020年調査では県内圃場の71.4%でせん孔細菌病が発生しており、過去10年間で最も高い水準です。有効農薬（ストレプトマイシン, Sm）に耐性を持つ菌も出現し、対策が急務となっています。



- ◎ 安定なせん孔細菌病菌接種系の確立
- ◎ モモ品種が持つ耐病性判別技術の確立
- ◎ ストレプトマイシン耐性菌に有効な防除法開発



せん孔細菌病防除技術の開発

耐病性品種の効率的選抜技術を開発しています

モモの病徴（岡山県病害虫防除所提供） 農薬耐性菌（右）

研究② ナスの重要病害「青枯病」を防除する技術の開発

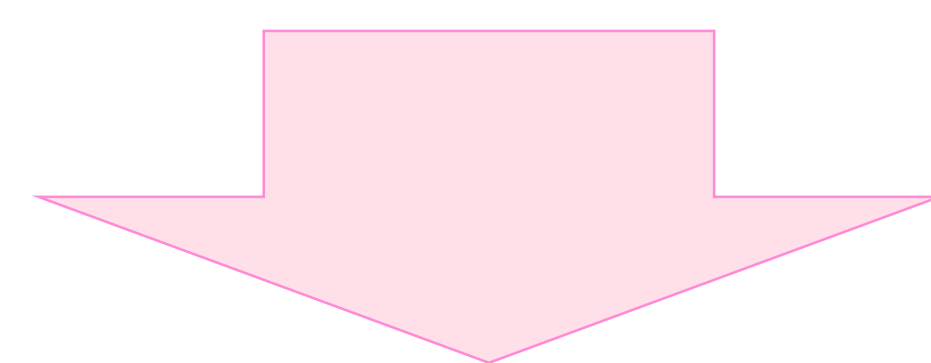
青枯病は土壌中に棲む病原菌が植物の根や傷口から植物の内部に侵入して引き起こす病害です。病原菌が植物内部で増殖するため、有効な農薬が無く、難防除性の病害です。

無接種

病原菌接種



- ◎ 青枯病抵抗性ナス系統の探索
- ◎ 青枯病抵抗性遺伝子の同定
- ◎ 青枯病抵抗性ナス品種の育成



青枯病防除技術の開発

野生種が持つ青枯病抵抗性遺伝子の同定に取り組んでいます

お問い合わせ先

岡山県農林水産総合センター生物科学研究所
加賀郡吉備中央町吉川7549-1 TEL 0866-56-9450